

2026年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

- ・分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②AI・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育
 ④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	授業担当教員	課程 (修士・博士)	開講 学期	曜日	講時	言語	分類 ①～⑤	授業の目的と概要
1 AI・XRで拓くグローバル・コミュニケーション	XR・メタバースで世界をつなぐ	2	林 雅子	修士課程等	1クォーター	水	4,5	日本語・英語併用	②③④	この授業は、XRおよびメタバース技術を用いて、世界中の大学とリアルタイムで協働する国際共修科目です。授業の目的は以下の3つです。 1. 海外の学生と国内の学生・留学生が「メタバース」を通じて自国の文化を協働して紹介し、知識と理解を深めること。 2. 「XR技術」を駆使して、現実感、没入感、臨場感の高いプレゼンテーション能力を向上させること。 3. 他国の文化と比較することで自国の文化を外から見つめ、他文化への関心と尊重する姿勢を育むとともに、将来のグローバル人材としての倫理観を高めること。 プレゼンターはUnityなどのツールを使用してメタバースワールドを作成し、その中で画像、動画、音声を組み合わせたプレゼンテーションを行います。オーディエンスはヘッドマウントディスプレイ（HMD）を装着し、臨場感と没入感の高い仮想空間を共有しながら、世界中の学生とインタラクションを行います。さらに、生成AIを活用して言語の障壁を超えた交流を促進します。
2 AI・XRグローバルPBL	XR・メタバースで考える世界の社会課題	2	林 雅子	修士課程等	3クォーター	水	4,5	日本語・英語併用	②③④	この授業は、XR・メタバース技術を用いて世界の社会課題を探求する国際共修科目です。授業の目的は以下の3つです。 1. 海外の学生と国内の学生・留学生が「メタバース」を通じて社会課題について各国の情勢や考え方を比較・検討し、考察を深めます。 2. 「XR技術」を活用して、現実感・没入感・臨場感の高いプレゼンテーション能力を向上させることを目指します。 3. 他国の文化と比較し、自国の文化を外から捉えることで、他文化への関心と尊重の態度を養い、将来のグローバル人材としての倫理観を高めます。 プレゼンターはUnityなどを活用して、社会課題の検討に有効なメタバースワールドを構築し、その中で画像・動画・音声を駆使したプレゼンテーションを行います。オーディエンスはヘッドマウントディスプレイ（HMD）を装着し、臨場感と没入感の高い仮想空間を共有しながら、世界中の学生とディスカッションを行います。また、生成AIを活用して言語の障壁を超えた交流を目指します。
3 修士インターンシップ・キャリア実習A	修士インターンシップ・キャリア実習A	1	猪股 歳之 門間 由記子	修士課程等	3クォーター	木	5	日本語	④	就業体験や事前準備を通じて自分の興味・関心や将来のキャリアを明確化し、学生生活や研究への取り組みをより一層充実したものとすることを目的として、博士前期課程・修士課程在学中にインターンシップ・キャリア実習（就業体験を含むキャリア教育）を行う。本科目が対象とするのは「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」の定める「タイプ2キャリア教育」または「タイプ3汎用的能力・専門活用型インターンシップ」に該当するプログラムで、本科目履修者は、経済同友会インターンシップ推進協会が実施するプログラムや本科目限定プログラムに参加するための選考を受けることができる。
4 修士インターンシップ・キャリア実習B	修士インターンシップ・キャリア実習B	2	猪股 歳之 門間 由記子	修士課程等	3クォーター	木	5	日本語	④	就業体験や事前準備を通じて自分の興味・関心や将来のキャリアを明確化し、学生生活や研究への取り組みをより一層充実したものとすることを目的として、博士前期課程・修士課程在学中にインターンシップ・キャリア実習（就業体験を含むキャリア教育）を行う。本科目が対象とするのは「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」の定める「タイプ2キャリア教育」または「タイプ3汎用的能力・専門活用型インターンシップ」に該当するプログラムで、本科目履修者は、経済同友会インターンシップ推進協会が実施するプログラムや本科目限定プログラムに参加するための選考を受けることができる。

2026年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

- ・分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育
 ④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	授業担当教員	課程 (修士・博士)	開講 学期	曜日	講時	言語	分類 ①～⑤	授業の目的と概要
5	融合領域研究合同講義	2	北澤 春樹	修士課程等	第2学期	水	3	日本語	①	学際的・異分野融合的研究領域の進展に伴い、学際的な視野を持つ優れた若手研究者を養成するために、東北大学を代表する研究者に1回ずつ問題意識、ブレイクスルー、先端的研究事例、研究経緯、体験談等を語ってもらうことにより、最新の学問の進展を俯瞰的に理解し、学際的・横串的な視野の重要性を体感する。
6	大学教授法開発論	2	戸村 理	博士課程等	1クォーター 3クォーター	火	3・4	日本語	①④	この授業では、日本の大学・高等教育機関で教員を目指す本学大学院学生が、現代日本の大学教育・高等教育で求められる基礎的知識を習得し、自分自身で授業を分析・設計・開発・実施・評価する自己省察力を身につけることを目的とする。
7	学際研究特別講義I	1	北澤 春樹	博士課程等	3クォーター	水	3	日本語	①	東北大学を代表する研究者に1回ずつ問題意識、ブレイクスルー、先端的研究事例、研究経緯、体験談等を語ってもらうことにより、最新の学問の進展を俯瞰的に理解する。これにより学際的・横串的な視野の重要性を体感するとともに、アカデミックなキャリアを追求する上でのヒントを得る。
8	学際研究特別講義II	1	北澤 春樹	博士課程等	4クォーター	水	3	日本語	①	学際研究特別講義Iに引き続き、東北大学を代表する研究者に1回ずつ問題意識、ブレイクスルー、先端的研究事例、研究経緯、体験談等を語ってもらうことにより、最新の学問の進展を俯瞰的に理解する。これにより学際的・横串的な視野の重要性を体感するとともに、アカデミックなキャリアを追求する上でのヒントを得る。
9	学際研究特別研修I	1	北澤 春樹	博士課程等	通年 (前・後期)	随時	—	日本語	①③	学際高等研究教育院が学際科学フロンティア研究所と協力して開催する全領域合同研究交流会および FRIS/DIARE Joint Workshop において、自分の研究内容を異分野の学生・研究者に理解できるよう工夫された発表を行い、専門外の視点からの質問・議論により、発表者も含め、理解を深化させる。
10	学際研究特別研修II	1	北澤 春樹	博士課程等	通年 (前・後期)	随時	—	日本語	①③	学際研究特別研修Iに続き、学際高等研究教育院が学際科学フロンティア研究所と協力して開催する全領域合同研究交流会および FRIS/DIARE Joint Workshop において、自分の研究内容を異分野の学生・研究者に理解できるよう工夫された発表を行い、専門外の視点からの質問・議論により、発表者も含め、理解を深化させる。
11	学際研究特別研修III	1	北澤 春樹	博士課程等	通年 (前・後期)	随時	—	日本語	①③	学際研究特別研修IIに引き続き、学際高等研究教育院が学際科学フロンティア研究所と協力して開催する全領域合同研究交流会および FRIS/DIARE Joint Workshop において、自分の研究内容を異分野の学生・研究者に理解できるよう工夫された発表を行い、専門外の視点からの質問・議論により、発表者も含め、理解を深化させる。

2026年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

- ・分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育
 ④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	授業担当教員	課程 (修士・博士)	開講 学期	曜日	講時	言語	分類 ①～⑤	授業の目的と概要
12	学際研究特別研修IV	1	北澤 春樹	博士課程等	通年 (前・後 期)	随時	—	日本語	①③	学際研究特別研修IIIに引き続き、学際高等研究教育院が学際科学フロンティア研究所と協力して開催する全領域合同研究交流会および FRIS/DIARE Joint Workshop において、自分の研究内容を異分野の学生・研究者に理解できるよう工夫された発表を行い、専門外の視点からの質問・議論により、発表者も含め、理解を深化させる。
13	学際フロンティア特別研修	1	北澤 春樹	博士課程等	通年 (前・後 期)	随時	—	英語・日 本語	①	自然科学、人文社会科学の様々な研究分野をカバーする学際科学フロンティア研究所の教員による研究発表セミナー。様々な分野の第一線で活躍する若手研究者による分かりやすい最新研究成果の紹介を聞き、討論に参加する。これにより俯瞰的・学際的な視野を養う。
14	博士リテラシーの基礎	2	佐久間 昭正 工藤 成史	博士課程等	第1学期 ・ 第2学期	火	1・2	日本語	④⑤	研究者としての入口に立っている博士学生が身につけるべき資質として最も重要なものは、言うまでもなく研究の遂行能力です。そこには、発想力や論理力も含まれます。これらの資質は、主に研究室の日常を通して磨かれていきます。さらに、皆さんが学位を取得した後、アカデミアに進むにしても、企業などに進むにしても、さらに必要とされる資質がいくつかあります。それは、人と人との関わり合いに絡んでくるものです。身近な人とのコミュニケーション力や、プロジェクト遂行のためのマネージメント力などがまず挙げられます。本科目では、これらの資質の底上げを図ることを目指しています。個人の課題から世界の課題まで皆さんそれぞれの問題意識を喚起し、その後の成長の糧となることや、異なる分野に属する受講生同士が、新たな人的ネットワークを構築する場となることも目指しています。
15	博士インターンシップ 研修	1又は2 ※実施 期間に より決 定	佐久間 昭正	博士課程等	通年	随時	-	日本語	④	博士後期課程の期間中に、日本国内の研究機関や民間企業での実習形式での研修及び研究活動を行う。本研修を通じて大学における研究や博士の能力を社会で活用する方法を学ぶと共に、企業における製品企画・開発や市場調査、品質管理などを実際に体験し、理解する。研修者は研修先および大学と連絡を取り実施する。
16	知的財産セミナー I	2	戸次 一夫	修士課程等, 博士課程等	第1学期	木	3	日本語	①④⑤	特許制度と社会実装との関係について理解した上で、新規の研究開発に向けた情報収集、強くて広い特許権の取得、特許権の被疑侵害者への対応、特許権侵害の回避といった様々な場面で要求される特許情報の取得・活用能力の獲得を目的とするものである。
17	知的財産セミナー II	2	戸次 一夫	修士課程等, 博士課程等	第2学期	木	3	日本語	①④⑤	内外の特許制度（知財関係条約のうち実務上重要なものを含む。）や、特許制度以外の知財制度について概要を理解した上で、オープン・クローズ戦略、標準化、知財ミックスといった、知的財産の戦略的保護・活用（知財戦略）に関する考え方や実践能力の習得を目的とするものである。

2026年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

- ・分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育
④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制的・社会的課題（ELSI）に関する教育

	科目名	授業題目	単位数	授業担当教員	課程 (修士・博士)	開講 学期	曜日	講時	言語	分類 ①～⑤	授業の目的と概要
18	再生可能エネルギー・ バイオマス循環	再生可能エネルギー・ バイオマス循環	2	多田 千佳	修士課程等, 博士課程等	第1学期	木	2	日本語	⑤	再生可能エネルギーの中でも、特に、バイオマスエネルギーに注目し、その技術や社会実装について、座学、実験、現場体験、グループディスカッションを行いながら、バイオマス循環について理解を深める。
19	国際教育演習	Global Studies of Higher Education	2	米澤 彰純	修士課程等, 博士課程等	第1学期	月	1	英語	①③	このコースは、日本および世界の大学のグローバルな文脈を総合的に理解することを目的としています。現代の知識基盤社会では、大学や高等教育が不可欠な役割を果たしています。同時に、現在の大学の特徴は、歴史的な文脈、アクセスや公平性の問題、頭脳獲得・流出や頭脳循環として認識される国際移動と必然的に結びついています。この授業では、以下のトピックを扱います。(1) 高等教育の歴史的起源と現在の動向、(2) 高等教育におけるアクセス、公平性、財政、(3) 知識経済と高等教育、(4) 高等教育の国際的な側面。これらのトピックを通して、受講者は日本および世界における大学の役割と価値を検討することが期待されます。この授業は、大学生活の国際的な文脈を理解する良い機会となります。本コースは学部生との共同開講となるため、大学院レベルでの高度教養教育に参加の皆さんは、クラス内で学部生とともに議論しながら、多様な教育、研究段階の大学のリアリティをより高度で専門的な観点から研究することを期待します。
20	国際教育演習	Japanese Universities and Students	2	渡部 由紀	修士課程等, 博士課程等	第2学期	火	2	英語	①③	本科目では、グローバル化の過程において、大学と学生が直面している問題について、日本の事例を通じて議論します。学習のプラットフォームは、関連する文献、講義、学生のプレゼンテーションを踏まえたディスカッションです。異なる教育経験を持つ履修者間で日本と他国の大学制度や教育実践、また大学生の態度や行動を比較し、英語で建設的な見解を共有するの向上を目指します。また、本科目は学部生対象科目との共同開講となるため、大学院生は、ディスカッションの場において、参加者の意見を引き出し、建設的な議論を導くファシリテーションスキルの向上が期待されます。
21	多文化理解PBL 特別演習	多文化理解PBL 特別演習	2	末松 和子	修士課程等, 博士課程等	第1学期	木	3	英語	①③⑤	地域の国際化をテーマとして、留学生と国内学生がディスカッションやグループワークを通して地域社会を巻き込みながら学び合う課題解決型の演習です。言語や文化背景の壁を越えて、相互理解を深め、多角的な視点で物事を見る力、また、誰も取り残されることのない「多文化共生社会」を創るために必要な行動力や発信力を身につけます。英語を使って、協働プロジェクトに取り組む中で、チームワークの意義や価値を理解します。特に、大学院生には、リーダーシップを発揮し、チームをまとめる役割を期待します。

2026年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

- ・分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育
④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	授業担当教員	課程 (修士・博士)	開講 学期	曜日	講時	言語	分類 ①～⑤	授業の目的と概要
22 多文化理解PBL 特別演習	多文化共生演習	2	高松 美能	修士課程等, 博士課程等	第1学期 第1学期 第2学期	火 水 月	2 2 2	日本語・ 英語併用	①③	本コースの目的は、普遍的な概念である「人権」をテーマに、他者と共に学ぶことを通じて、人権を身近なものとして捉え、人権が保障された社会を築くため、日常生活でできることから行動に移す力を育成することにある。そこでは、参加者が個別具体的な人権問題を他者に伝え、他者の経験の聞きながら、自己の「価値観」を振り返り、互いに学び合う。本コースは学部生との共同開講となるため、大学院レベルでの高度教養教育に参加の皆さんは、クラス内で学部生とともに、自己と他者の共生関係を築いていけるよう、積極的に民主的な学習環境づくりを働きかけ、グループディスカッションをファシリテートする力を養うことを目指す。
23 多文化理解PBL 特別演習	地元企業との PBL特別演習	2	新見 有紀子	修士課程等, 博士課程等	第2学期	月	3	英語	①③④⑤	留学生と国内学生が協働して、地元企業について学び、企業の抱える課題に関連する調査を実施し、解決策を提案するというプロジェクトワークを行う。履修学生はこのプロジェクトを通して、地域のビジネス現場を知り、課題発見・解決能力やコミュニケーション能力を含む社会人としての素養（エンプロイアビリティ）を高めることを目的としている。国内学生は、英語能力や異文化協働能力を向上させる機会となる。留学生は、日本の企業文化やビジネスの現場について理解を深めることができる。大学院生には、プロジェクトワークにおけるリーダーとして、多文化のチームをまとめる役割を期待する。
24 グローバル・ コミュニケーション 協働演習	多文化理解PBL 特別演習	2	末松 和子	修士課程等, 博士課程等	通年	水	5	英語	③④	文化背景の異なるチームメンバーと課題解決型の協働プロジェクトに取り組むことで、異文化理解力、コミュニケーション力、チームワーク、リーダーシップ、自発性、企画力、創造力、行動力などの、国際社会で活躍するために必要なグローバル・コンピテンシーを身につけます。今学期は、日本のポップカルチャーの「お笑い」をテーマとし、吉本興業等とのコラボレーションを授業に取り入れながら、世界各国のユーモアに見る価値観の相違点や類似性に対する理解を深めます。チームでグローバルなお笑い作品を作る中で、国際的な環境で協働する力を身につけます。大学院生には、ファシリテーターとしてプロジェクトを支援する役割を期待します。
25 異文化交流演習	Inter-cultural Seminar	2	芳賀 満 Elena FABBRETTI	修士課程等, 博士課程等	第2学期	木	2	日本語・ 英語併用	③	異文化交流の歴史的事例や、ポップ・カルチャー、グローバルな社会問題などを題材に調査および発表を行うことで、英語力の向上とプレゼンテーションのスキルアップを目指す演習科目です。本演習は主に三つのパートから構成されます。最初のパートでは、近代における日本と欧米の交流史を講師が簡単に紹介します。続いて二つ目のパートでは、現代日本のポップカルチャーが引き起こしている異文化交流の事例を、参加者が各々の関心に応じて調査し5分程度の短い発表を行います。最後に三つ目のパートでは、気候変動やファストファッションといった地球規模の問題が近年どのように議論されてきたか、また今後どのような問題がこれと関連して生じる可能性があるかに焦点を当て、各参加者が15分程度の発表を行います。なお、これらの題材を扱う際には、ディスカッションに積極的に参加し、学際的かつ国際的な視点からアプローチすることを重視します。

2026年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

- ・分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育
 ④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	授業担当教員	課程 (修士・博士)	開講 学期	曜日	講時	言語	分類 ①～⑤	授業の目的と概要
26 東北から世界を知る	フィールドワークを通じた国際的視野の探索	1	門間由記子・大吹哲也・中川学・猪股歳之	修士課程等	3クォーター	金	5	日本語	④	この授業では留学生・日本人学生の協働によって異なる文化背景を共有し、互いの価値観を相対化することで、多角的な視点から物事を捉える力の醸成を目指します。人口減少や防災、地域活性化などの社会課題の先進地ともいわれる東北地域での就業体験やサービスラーニングを通じて、世界的な文脈のなかで社会課題を多角的に捉える視点を養います。
27 キャリア・スキル 開発特別演習	キャリア・スキル 開発演習	2	米澤 由香子	修士課程等, 博士課程等	第2学期	月	5	英語	①③④	本科目では、キャリアを生涯にわたり継続的に学び行動するプロセスととらえ、これからの自身のキャリアを主体的に作り上げていくための知識、スキル、態度を学びます。これらの知識、スキル、態度は、一般的な就職を検討している学生のみならず、研究職を希望する学生にとっても必要な汎用的技能（ジェネリックスキル）といえます。受講生は、①自身のキャリア観の形成にとって有益な知識や情報を得るために、多様な文化的、言語的、教育学的あるいは職業上のバックグラウンドをもつゲストスピーカーの講義等から学び、②協働することの意義を知るために、履修する仲間との協同学習をおこない、そして③学びの成果を俯瞰し、キャリアに関する目標を立て具体的な行動へとつなげるために、プレゼンテーションやレポートなどの成果を提出します。とりわけ、本科目での学びを最大化するためには、参加する学生同士が発言や傾聴などを通して積極的に他者と相互作用する学習活動が求められます。本科目は学部生対象科目との共同開講となるため、大学院生には、学部生や留学生との対話や議論において先導的役割を担うことで、リーダーシップの養成を目指すことを期待します。
28 キャリア・スキル 開発特別演習	意思決定比較演習	2	末松 千秋	修士課程等, 博士課程等	第1学期	木	2	英語	③④	本コースでは、日本企業での意思決定の方法について理解してもらいます。特に英国で発行された書籍の内容を討議することで、日本以外欧米の意思決定システムについても、それらの長所と短所を把握します。コースの目標は、コンセンサス意思決定を迅速に行えるよう、ファシリテーターの役割を実行出来ること、です。大学院学生の皆さんには、クラス内で学部生、留学生とグループ討議を行い、指導的役割を担ってもらうことで統率力、指導力の強化に努めてもらいます。
29 キャリア・スキル 開発特別演習	雇用慣行比較演習	2	末松 千秋	修士課程等, 博士課程等	第2学期	木	2	英語	③④	本コースでは、大企業を中心とした日本の雇用慣行の基本を理解してもらいます。特に英国で発行された書籍の内容を討議することで、日本以外他の国の雇用システムの長所と短所を把握します。日本大企業での一般的な人事システムについて、過去20年間で雇用改革が行われた理由を理解し、今後日本の雇用慣行がどのように変革するか洞察すること、も目指します。大学院学生の皆さんには、クラス内で学部生、留学生とグループ討議を行い、指導的役割を担ってもらうことで統率力、指導力の強化に努めてもらいます。

2026年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

- ・分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育
 ④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	授業担当教員	課程 (修士・博士)	開講 学期	曜日	講時	言語	分類 ①～⑤	授業の目的と概要
30 留学生のためのキャリア 設計	日本で考えるキャリア構 築	1	門間由記子 YUKIKO MOMMA・王潔 WANG XUAN・ Jonathan STIMMER・猪股 歳之TOSHIYUKI INOMATA	修士課程等, 博士課程等	3クオー ター	月	5	日本語	④	この授業では日本でのキャリア構築を考える留学生を対象とし、日本の企業文化や雇用慣行への理解を深め、職業キャリアとライフキャリアを主体的に考える力を養うことを目的とします。ビジネスの場面で求められるビジネス日本語についても、自己分析や面接練習などのワークを取り入れ、自己理解の深化や多様なキャリアパスの理解、日本語運用力やキャリアプランニング能力の向上を目指します。
31 英語によるプレゼンテー ション演習	英語によるプレゼンテー ション演習	2	猪股 歳之 坪井 俊 Meres Richard 門間 由記子 影山 徹哉	修士課程等, 博士課程等	第1学期	随時	-	日本語・ 英語併用	①③	この授業の履修者は、プレゼンテーションコンテストFalling Walls Lab Sendaiに出場し、3分間で自身の研究プロジェクトやそれに基づいたビジネスモデル及び社会的問題解決の方法などを英語で発表します。準備のプロセスでは、英語でのプレゼンに必要な要素を学ぶとともに出場者の特典であるプレゼンテーションコーチングを受講し、自身のプレゼンテーション能力を磨きます。なお、Falling Walls Lab Sendai優勝者はベルリンの本選（11月上旬）へ出場できる権利が与えられます。
32 AI応用学習方法論演習	生成AIを活用して学ぶ	2	澤田 亮	修士課程等, 博士課程等	第2学期	水	2	日本語	②	本授業は、ChatGPT等の対話型生成AIを効果的に活用することにより自己の学習活動を深化させる方法を学ぶことを目的とする。生成AIの特性や適切な使用法を理解し、批判的思考力や創造的問題解決能力を育成する。受講者間の対話やAIとの対話を通じて、新しい学習アプローチを探求する。
33 科学リテラシー 養成基礎	科学リテラシー 養成基礎	2	山内 保典 金井 浩	修士課程等, 博士課程等	第2学期	随時	-	日本語	①②④⑤	副題：自然・科学・社会そして人と文化について考え、深刻な社会課題解決を目指す 人文社会・理工系を問わず、社会の役に立ちたい、社会課題を解決したい、持続可能で心豊かな社会を実現したいと望むことは、その専門性を活かし社会に受容可能でインパクトある成果を生み出すためには必要である。 本講義では、大学から大学院に進学し、各々の「専門知」によって社会課題の解決に挑戦しようとするとき、直面するであろう課題、自然や科学の力を知り、人間社会の在り方や文化を理解しながら研究を進める重要性など、各分野の専門家が自らの経験を踏まえながら解決の方法論に向けた講義を行う。
34 教養教育院特別講義B	数理モデルの手法と 応用	2	田中 仁	修士課程等, 博士課程等	第2学期	火	4	日本語・ 英語併用	①②	科学においては、各分野においてさまざまな数理モデルが使用されている。ここでは、これらの数理的手法に共通する要素を抽出し、普遍的な立場から、その解析的解法、表計算プログラムを用いた数値的解法を解説し、モデルの有効性、限界を議論する。具体的な例としては、社会的に関心の深いテーマを取り上げる。これにより数理的な視点を深化させ、種々の場面の対処能力を強化する。特に博士課程ではさらに得られた学際的視点を自身の研究にフィードバックする。

2026年度 大学院共通科目シラバス概要一覧

- ・分類：①大学院レベルでの高度教養教育 ②A I・数理・データ教育等現代社会に必要な能力の涵養 ③英語・プレゼンテーション等の研究力向上のための教育
 ④トランスファラブルスキルなど汎用スキルの涵養 ⑤倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）に関する教育

科目名	授業題目	単位数	授業担当教員	課程 (修士・博士)	開講 学期	曜日	講時	言語	分類 ①～⑤	授業の目的と概要
35 教養教育院特別講義C	人間理解のための進化学	2	河田 雅圭	修士課程等, 博士課程等	第2学期	金	5	日本語	①	自然科学系分野だけでなく人文社会学系の分野に必要な進化によって形成された人間の特性を理解することを目的とする。人類が、どのような特性を進化によって獲得してきたかを正しく理解することは、医学、環境科学、生命科学、情報学といった自然科学系分野のみならず、哲学や倫理学、社会科学、心理学や教育学においても重要である。ここでは、進化の基本的メカニズムと人類進化の最先端の研究成果について理解を深めるとともに、人間とは何か、という根源的問題について議論する。